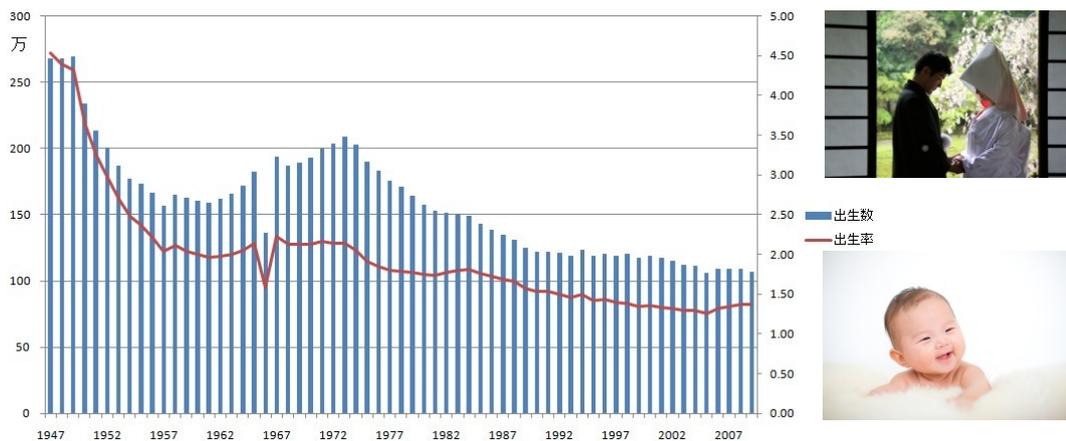


そもそもなぜ少子高齢化問題は起きているのか？

2050年には日本の人口は1億人割れし、65歳以上の高齢者人口率は40%を超えるといわれています。「子供を産み育てる経済力がないから」「国の制度が子育てする人に優しくないから」「女性が育児と仕事を両立できないから」と言われる方は多いでしょうし、国の政策面ではまだまだ改善の余地があります。しかし過去の出生率を見ると、オイルショック等の不況期に急に下がったわけでも、バブルなどの好況期に上がったわけでもありません。



日本の合計特殊出生率と出生数の推移(厚生労働省)。出生率が低い1966年は「ひのえうま」。

実のところ、「結婚・出産するかしないかは個人の自由」「趣味に打ち込みたい、一人の時間が大事、だから独身でもいい」「結婚は責任が伴うからしたくない」「貯金さえしていれば自分の老後は大丈夫」こうした「今さえよければ」「自分さえよければ」といった考え方が蔓延しているのも、少子高齢化の一因ではないでしょうか。日本全体のこと、社会全体のことを考えずに皆が「望んでおひとりさま」になってしまうと、取り返しがつかないことになります。

移民は日本の国の形を壊す、最悪の選択肢。欧州の悲劇から学ぼう！

「日本人の出生率が低いのであれば、外国人の移民を受け入れればいい」最近そんな議論が、経済学者などから挙がっています。しかし、移民政策をすでに導入した欧州では、移民の人口が自国民の人口を凌駕し、国を乗っ取られるほどの大問題に。たとえば、欧州でも特に移民に寛容といわれるスウェーデンは、2049年には人口の過半数をイスラム系移民が占めるといわれています。こうした事実は日本のマスコミでは報道されていませんが、現地の国民がインターネットの動画などを通して、国の形が歪められる惨状を訴えています。

(次ページへ続く→)

少子高齢化の今こそ必要な、私たち一人ひとりの未来への責任。

「今さえよければ」
「自分さえよければ」
そんな考えはもう終わりにしませんか？